

## 複合動詞「一出す」の分類

——統語論的・意味論的方法を使って

はじめに

日本語の語彙は、「雨」「鳥」など、これ以上分解できず単独に用いられる「単純語」と、二つ以上の要素によって成り立つ「合成語」に分けられる。合成語はさらに、「昼―休み」のように独立性の強い単純語のみで構成された「複合語」と、「男―らしい」のように単純語に接辞のついた「派生語」に分けられる（新しい国語学」八五ページ）。複合語はさらに、後項要素に來る語の品詞によって「複合名詞」、「複合動詞」、「複合形容詞」に分類され、複合動詞はさらに、語構成によって「フルヒワナク」などの「動詞（連用形）+動詞」、「イキタユ」などの「名詞+動詞」、「イホリス」などの「名詞+す」に分類される（阪倉一九六六・四三九―四四六ページ）。今回扱う複合動詞「一出す」の語構成は、これらのうちの

「動詞（連用形）+動詞」であり、「V1+V2」という公式で表すと、「一出す」はV2にあたる。

複合動詞中のV2については、齋藤（二九九二…二七七一―一九九ページ）が「返す」と「―返す」の意味的關係や「―返す」の接辞性について論じており、さらに姫野（二九九九）は「―あげる」「―あがる」「―こむ」「―でる」「―だす」「―つく」「―つける」などの多くの語について、主として意味論的に論じている。さらに、大山（一九九八）は、複合動詞「一出す」を認知言語学的に分析、分類している。この論文における複合動詞「一出す」の分類は、統語論的テストと意味論の両方によっている点で、姫野や大山とは異なるが、動詞「出す」と補助動詞「一出す」の意味的關係を論ずる点では齋藤（二九九二）と同じくする。

今回、数ある複合動詞の中で特に「一出す」を選んだのは、「出

日野 資成

「す」による複合語が豊富にあること(二三四語)と、「―出す」には空間的移動を表したり、完了や開始のアスペクトを表したりするなどさまざまな用法が見られ、それらと「出す」のもともとの意味とはどのような関係にあるのだろうかということを研究しようと考えたからである。

なお、今回は現代の複合動詞「―出す」のみを扱うこととし、古語の複合動詞「―いだす」や「―いづ」と現代語の複合動詞「―出す」との関係など、歴史的な問題については、稿を改めて論じたい。

動詞「出す」は「ある領域にあるものをその領域外へ移す動作」を表す。ある対象を目的語として対格「を」を取り、その対象を内から外へ移す動作を表すので、「出す」は他動詞である。複合動詞「―出す」の中にも「押し出す」(押して、(何かを外へ)移す)のように他動詞的に使われる場合もあるが、一方「飛び出す」の「―出す」は「飛び出る」に置き換えることができ、自動詞的である。さらに、「泣き出す」の「―出す」は空間的「内から外への移動」ではなく、「―し始める」の意味で時間的に用いられている。本稿の目的は、(1)複合動詞「―出す」を統語論的、意味論的に分類すること、(2)動詞「出す」と複合動詞中の補助動詞「―出す」との統語論的、意味論的關係を明らかにすることである。日野(二〇〇一)における、補助動詞「―出す」の分析をさらに発展させたのが本稿である。まず、日野(二〇〇一)を簡単に紹介する。

## 1 日野(二〇〇一)の分析

日野(二〇〇一)で扱った動詞は、『動詞・形容詞問題語用例集』より、複合動詞を構成する生産性の高い順に抜き出したもので、全部で一九語ある<sup>①</sup>。その動詞を含む複合動詞を、寺村(一九八四…一六七ページ)による次の複合動詞の公式に当てはめることによって、その中から補助動詞を取り出した。

寺村による複合動詞の分類

(イ) V-V 呼び入れる、握りつぶす、殴り殺す、ねじ伏せる、出迎える

(ロ) V-V 降り始める、呼びかける、思い切る、泣き出す

(ハ) V-V さし出す、振り向く、打ち樹てる、引き返す

(ニ) V-V 払い下げる、(話を)切り上げる、(仲を)取り持つ、(芸を)仕込む、とりなす

ここでVは、「単独で使われるときの意味、文法的特徴が、複合体の中でも保持されているもの」、vは、「単独の場合とは全く、あるいはかなり違ってしているもの」を表す。(イ)におけるあとのVは動詞として扱われているのに対し、(ロ)におけるvは補助動詞<sup>②</sup>として扱われている。(イ)と(ロ)を区別する統語論的テストとして、「V1(連用形)で、V2」という公式が使われている。「V1

て、V2」と言える場合は(イ)に「呼んで、入れる」など、言えない場合は(ロ)に含めるもので「降<sup>\*</sup>って、始める」など、日野(二〇〇二)でもこの公式を使って複合動詞を振り分けた。(ハ)におけるあとのVは、前のvを接頭語として扱うため、動詞として扱われている。最後の(ニ)のv-vは全体で一語として認められ、二つに分割できないため、寺村は分析の対象としていない。

「出す」を含む複合動詞は『動詞・形容詞問題語用例集』に六二語ある。それを「V1で、V2」と言えるかどうかによって(イ)と(ロ)に分類した。たとえば、「押し出す」などは「押して、出す」と言えるので(イ)に属し、後項要素「一出す」は動詞として扱い、補助動詞のみを扱う日野(二〇〇二)では検討の対象外とした。一方(ロ)に属する九語の複合動詞の後項要素を補助動詞として検討の対象とした。そのうち、「飛び出す」「吹き出す」などの「一出す」を「外へ」の方向のみをもとの動詞「出す」から抽出した抽出化として扱い、「泣き出す」「降り出す」など、「一し始める」という意味になる「一出す」を「空間」から「時間」への抽象化として扱った。

## 2 今回の分析

今回は、まず「一出す」を含む複合語一二四語を『逆引き広辞苑』より抜き出した。この数は日野(二〇〇二)で扱った六二語の

倍あるので、より統計的にも価値ある分析が可能となった。

今回も、前回同様一二四語を「V1で、V2」と言えるかどうかによって(イ)「V-V」と(ロ)「V-v」に分ける。(イ)については、「V1で、V2」と言えるテストに加えて、「一出る」と言えないというテストも使って複合語中の「一出す」に他動性が保持されている証拠とする。前対象外とした(イ)については、今回は検討の対象とし、(イ)に属する語をさらに意味によって二つに分ける。この点については、次の第3節で論ずる。さらに、(ロ)については「一出る」に置き換えられる語、置き換えられない語に統語論的に分け、前者は前回同様「外へ」という方向のみの抽出化、後者は空間から時間への抽象化と「突発性」の抽出化が同時に起きるものとして説明する。この点については、第4節で論ずる。(ハ)「v-v」については「うち出す」「さし出す」「ふり出す」「つん出す」の四語のみで、これらの「うち」「さし」「ふり」「つん」を強調の接頭語、「出す」を本動詞と同等のものとし、今回も検討の対象外とする。最後の(ニ)「v-v」については、(イ)と(ロ)が抽象化してできたものとし、第5節で論じる。

## 3 (イ)「V-V」の、意味による下位分類

統語論的テスト「V1で、V2」をパスするというのは、V2に動詞「出す」の基本的な意味「ある領域にあるものをその領域外へ

移す動作」が保存されていることを意味する。このテストをパスした七八語の複合動詞もこの基本的な意味を維持している。しかし、これらのうち四七語は、(a)「V1の動作主と目的語が同じ領域内において、動作主が目的語を自分の領域内から領域外へ移す動作を表す」のに対し、三一語は、(b)「V1の動作主が目的語の領域外において、動作主が目的語を、ある領域内から自分の領域内へ移す動作を表す」。以下にそれぞれに属する語を一〇語ずつ挙げる(その他の語については、巻末の一二四語のリスト参照)。

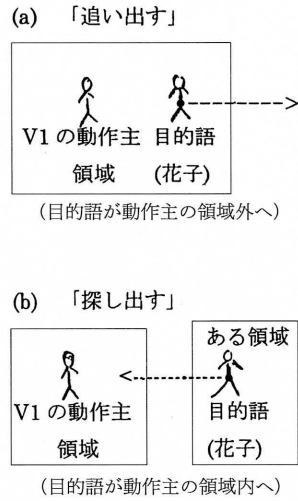
表1 「V1で出す」と言える複合動詞の分類

<p>(a) V1の動作主と目的語が同じ領域内において、動作主が目的語を自分の領域内から領域外へ移す動作を表す語</p> <p>追い出す (追って、(外へ) 出す)          押し出す (押して、(外へ) 出す)          掻き出す (掻いて、(水を外へ) 出す)          蹴出す (蹴って、(外へ) 出す)          締め出す (締めて、出す。(戸を) 締めて (外へ) 出す)          つかみ出す (つかんで、(外へ) 出す)          突き出す (突いて、(外へ) 出す)          つまみ出す (つまんで、(外へ) 出す)          つり出す (力士を) つって、(土俵の外へ) 出す)          投げ出す (投げて、(外へ) 出す)</p>	<p>(b) V1の動作主が目的語の領域外において、動作主が目的語を、ある領域内から自分の領域内へ移す動作を表す語</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------

選び出す (選んで、(一つを) 出す)  
 嗅ぎ出す (嗅いで、(隠れているものを) 見つける)  
 繰り出す (繰って、出す。(順順に) 繰って (糸や綱を) 出す)  
 探し出す (探して、出す。探して (何かを) 見つける)  
 誘い出す (誘って、出す。誘って (誰かを自分のもとへ) 出す)  
 救い出す (救って、出す。(人を) 救って、(現場から) 出す)  
 連れ出す (連れて、出す。誘って、(自分のもとへ) 出す)  
 取り出す (取って、(自分のもとへ) 出す)  
 引き出す (引いて、出す)  
 拾い出す (拾って、出す)

(a) の中では、たとえば、「追い出す」を使った文「太郎は花子を部屋から追い出した」の場合、V1「追う」の動作主「太郎」とV1の目的語「花子」は、最初同じ領域内において、動作主「太郎」は目的語「花子」を自分の領域外へ移す。一方(b)の中では、たとえば「探し出す」を使った文「太郎は花子を探し出した」の場合、V1「探す」の動作主「太郎」は、最初目的語「花子」の領域外において、目的語「花子」を、ある領域内から自分の領域内へ移す。この(a)「追い出す」と(b)「探し出す」を図で表すと次のようになる。

図1 「V1て出す」と言える複合動詞「一出す」の分類



いずれの場合も、動作主が目的語（ここでは「花子」）を、ある領域からその領域外へ移す点が共通している。

(a)、(b) に属するこれらの複合語中の「一出す」が動詞「出す」の他動性を維持しているのは、これらの複合語がすべて「一出る」と言えないという統語論的テストによって明らかである（洗<sup>\*</sup>出る、押<sup>\*</sup>し出る、呼<sup>\*</sup>び出る、など。巻末のリスト中の「V1て出す」と言える複合動詞（七八語）参照）。

4 (ロ) 「V・v」の、統語論的下位分類

「V1てV2」と言えないことから(ロ)「V・v」に属する「一出す」の複合動詞は四六語ある。これらの語のうち、「一出る」に置き換えられる語は一七語、置き換えられない語は二九語ある。「一出る」に置き換えられない語は、さらに「開始」のアスペクト

を表す語（一〇語）と「完了」のアスペクトを表す語（二九語）に分類する。それぞれ一〇語ずつ挙げる（その他については、巻末のリストを参照）。

表2 「V1て出す」と言えない複合動詞の分類

(a) 「一出る」に置き換えられる語	溢れ出す (溢れて、出す) 溢れ出る こぼれ出す (こぼれて、出す) こぼれ出る 突き出す (突いて、出す) 突き出る 飛び出す (飛んで、出す) 飛び出る 逃げ出す (逃げて、出す) 逃げ出る 抜け出す (抜けて、出す) 抜け出る 這い出す (這って、出す) 這い出る はみ出す (はみて、出す) はみ出る 吹き出す (吹いて、出す) 吹き出る 湧き出す (湧いて、出す) 湧き出る
(b) 「一出る」に置き換えられない語	(b-1) 「開始」のアスペクトを表す語 言い出す (言って、出す) 言い出る 売れ出す (売れて、出す) 売れ出る 思い出す (思って、出す) 思い出る 駆け出す (駆けて、出す) 駆け出る し出す (して、出す) し出る 存じ出す (存じて、出す) 存じ出る 泣き出す (泣いて、出す) 泣き出る 乗り出す (乗って、出す) 乗り出る

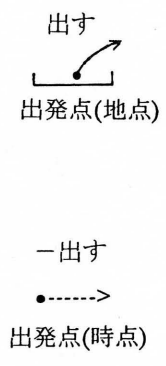
降り出す (降って、出す)	降り出る
燃え出す (燃えて、出す)	燃え出る
(b-2) 「完了」のアスペクトを表す語	
編み出す (編んで、出す)	編み出る
生み出す (生んで、出す)	生み出る
織り出す (織って、出す)	織り出る
醸し出す (醸して、出す)	醸し出る
考え出す (考えて、出す)	考え出る
磨り出す (磨って、出す)	磨り出る
煎じ出す (煎じて、出す)	煎じ出る
染め出す (染めて、出す)	染め出る
作り出す (作って、出す)	作り出る
研ぎ出す (研いで、出す)	研ぎ出る

(a) の複合語は「―出る」に置き換えられるので自動詞的である。「出す」が他動詞なので、動詞から補助動詞にいたるとき、他動詞から自動詞に統語論的に変化したことになる。(a) の補助動詞「―出す」は、「外方向へ」という意味を前の動詞に添えている。たとえば、「逃げ出す」は「外へ向かって逃げる」という意味である。もともとの動詞「出す」が「外へ」の方向性を持った動作を表す語であるから、補助動詞「―出す」は動詞「出す」から「外へ」の方向性のみを抽出したと考える。

(b-1) の「―出す」は「―し始める」という「開始」のアスペクトを表している。空間的に「内から外に移す」という動作が、ど

うして時間的に「―し始める」という意味が変わるのだろうか。日野(二〇〇二)では、図2のように基準点となる出発点が空間における地点から、時間におけるある時点に変わることによる「空間」から「時間」への抽象化として説明した。

図2 「出す」の抽象化(「空間」から「時間」へ)



しかし、ここでもう一つ考えに入れなければならないのは、「―出す」の持つ突発性である。「泣き出す」「降り出す」は「泣き始める」「降り始める」に比べて突発性が高いことはよく指摘されている(寺村一九八四・一七六、森田一九七七・二七四など)。これは、「出す」という動詞そのものが「突発性」を含むからではないかと思われる。たとえば、何か物を箱から出すとき、何もなかったところに突然何かが現れるからである。結局、「内にあるものを外に移す」という動詞から、「―し始める」という開始のアスペクトを表す補助動詞への変化は、「空間」から「時間」への抽象化と「突発性」の抽出が同時に起った結果であると考ええる。

(b-2) の「―出す」は「―てしまう」という完了のアスペクト

を表している。「完了」というアスペクトも突然終る様子を表すので、動詞「出す」から完了のアスペクトを表す補助動詞「一出す」への変化も、「空間」から「時間」への抽象化と「突発性」の抽出化が同時に起った結果であると考えられる。結局、「一出す」の持つ「開始」と「完了」のアスペクトはどちらも、「出す」という動詞の持つ突発性から来ていると言えよう。

5 (ニ)「V-V」に属する複合動詞「一出す」

(イ)、(ロ)に属する複合動詞のうち、V1という動作の目的語が、物や人(もの)という意味範疇に属する)に加えて、ことがら(こと)という意味範疇に属する)に抽象化して用いられる語を次に挙げる。

表3 目的語が「もの」から「こと」に抽象化する複合動詞「一出す」

	「もの」	「こと」
(イ) 洗い出す	洗濯物を洗い出す	問題点を洗い出す(問題点を洗う)
切り出す	木を切り出す	話を切り出す(話を切る)
繰り出す	糸を繰り出す	新手を繰り出す(新手を繰る)
曝け出す	肌を曝け出す	秘密を曝け出す(秘密を曝ける)
絞り出す	水を絞り出す	知恵を絞り出す(知恵を絞る)
たたき出す	ほこりをたたき出す	記録をたたき出す(記録をたたく)
投げ出す	ボールを投げ出す	仕事を投げ出す(仕事を投げる)
吐き出す	食べ物や吐き出す	ことばを吐き出す(ことばを吐く)

はじき出す	人をはじき出す	経費をはじき出す(経費をはじく)
拾い出す	ボールを拾い出す	ことばを拾い出す(ことばを拾う)
放り出す	ボールを放り出す	仕事を放り出す(仕事を放る)
(ロ) 生み出す	子を生み出す	記録を生み出す(記録を生む)

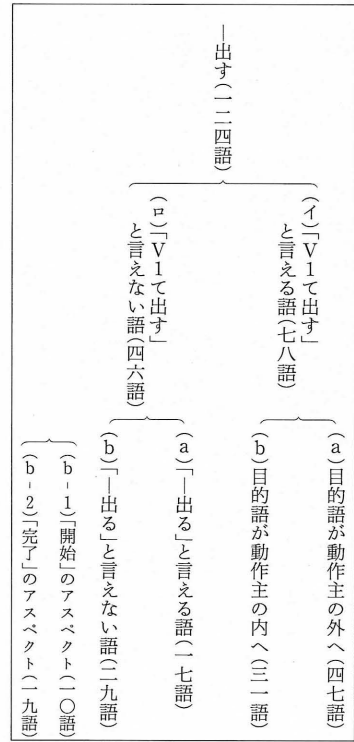
これらの複合動詞の目的語が「こと」である場合、「一出す」なしにV1の終止形とともに使えるかどうかのテストが括弧内である。V1単独で「こと」を目的語に取り得ないのに「V1+出す」では取り得るということは、「V1+出す」全体が抽象的に一語化したと考えられるので、寺村の「V-V」に含めることとする。ここでは、「問題点を洗う」「話を切る」「新手を繰る」「記録をたたく」「経費をはじく」が非文となるので、「洗い出す」「切り出す」「繰り出す」「たたき出す」「はじき出す」が「V-V」に属することになる。

6 まとめ

まず、複合動詞「一出す」の分類をまとめて表にして示す。

表4の分類のうち、「V1てV2」と言えるかどうか、「一出る」と言えるかどうかによる分類法は統語論的分類法、「目的語がV1の動作主の領域外へ移動するか、領域内へ移動するか」、「開始」と「完了」のアスペクト」は意味論的分類法である。今回の分類は、このように、統語論を根幹に据えながらも、より下位分類において

表 4 複合動詞「―出す」の分類



は意味論も使用した。

次に、動詞「出す」と補助動詞「―出す」との関係をもとめる。

表 4 で、「V1てV2」と言える場合、V2の「出す」は動詞として扱い、「V1てV2」と言えない場合、V2の「―出す」を補助動詞として扱う。したがって、補助動詞「―出す」は(ロ)の「V1て出す」と言えない語の後項要素である。まず、統語論的には、(ロ)のうちの(a)「―出る」と言える語について、他動詞「出す」が、自動詞になったと言える。次に、意味論的には、(ロ)のうち「―出る」と言える語については、動詞「出す」から「外へ」という方向性のみを抽出したと解釈した。また、「―出る」と言えない語については、動詞「出す」の「突発性」を抽出すると同

時に、空間的動作を表す動詞「出す」が時間的に抽象化した結果、

「開始」のアスペクト、「完了」のアスペクトが生まれたと解釈した。

注

(1) 一九語の動詞を以下に挙げる。

- 「会う」「上がる」「上げる」「入れる」「返す」「出す」「立てる」
- 「付く」「付ける」「詰める」「通す」「取る」「分ける」「遣わす」
- 「奉る」「給ふ」「申す」「遣る」「渡る」

(日野二〇〇一・一一ページ)

(2) 寺村(一九八二・五八)は「補助動詞」を「もともととは動詞として使われていたものが、補助形式としての機能に転じた、と見られるもの」と定義している。(ロ)のV・vの例で複合動詞「降り始める」「呼びかける」「思い切る」「泣き出す」の「―始める」「―かける」「―切る」「―出す」はもともと、それぞれ「始める」「かける」「切る」「出す」という動詞として使われていた。それが、動詞の連用形に結合して補助形式となったので、「―始める」「―かける」「―切る」「―出す」を補助動詞という。これらの補助動詞は、もともとの動詞とは意味も変わっている。たとえば、「泣き出す」の「―出す」は「―し始める」という時間的な意味で使われ、動詞「出す」の「内にあるものを外へ移動する」という空間的な意味とは異なっている。したがってvで表される。

(3) 本稿で「降<sup>\*</sup>って、始める」などに付されている「\*」(アステ



リスク)は、文や句が非文法的であることを表す。

(4) 「突き出す」は、「突いて、(外へ)出す」と言えるのです。「(イ) V-V」に含めたが、ここでは、「外に向かって張り出る」という別の意味で使われ、「突いて、出す」と言えないので「(ロ) V-V」に含めた。この統語論的テストにより、この二つの「突き出す」は異なる語彙として取り扱うこととする。

(5) (b-1)の一〇語のうち「思い出す」「存じ出す」「思い出す」の謙讓語」と「乗り出す」については、「―し始める」という開始のアスペクト以外にも「想起する」、「からだを前方へ突き出す・乗って出て行く」という意味がある。前者の場合は心理的な意味で、後者の場合は物理的な意味で、「―出す」には「外へ」の方向性を含むと考えられる。

(6) 「空間」「時間」も言語普遍的意味範疇を表すので、「―でくくった。」「時間」が「空間」よりも抽象的であるのも、「空間」が見えるのに対して「時間」が見えないからである。

(7) 「もの」「こと」も普遍的意味範疇として、「―でくくって示した。」「こと」が「もの」よりも抽象的であるのも、「もの」が見えるのに対して「こと」が見えないからである。

(8) 「話を切る」は言えるが、これは、「話を中断する」という意味であり、「話を始める」という意味の「話を切り出す」とは異なるので「\*」を付した。

参考文献

『新しい国語学』 佐藤智明その他著 朝倉書店 一九八八年

『逆引き広辞苑』 岩波書店辞典編集部編 岩波書店 一九九二年

『動詞・形容詞問題語用例集』 西尾寅弥・宮島達夫編 秀英出版 一九七一年

大山シアノ 「V-V複合動詞における認知言語学的考察―「―出す」複合動詞に関して―」 教育学研究紀要第2部(中国四国教育学会) 43 一九九八年

斎藤 倫明 『現代日本語の語構成論的研究』 ひつじ書房 一九九二年

阪倉 篤義 『語構成の研究』 角川書店 一九六六年

寺村 秀夫 『日本語のシンタクスと意味』 くろしお出版 I…一九八二年、II…一九八四年

日野 資成 『形式語の研究』 九州大学出版会 二〇〇一年

姫野 昌子 『複合動詞の構造と意味用法』 ひつじ書房 一九九九年

森田 良行 『基礎日本語』 角川書店 一九七七年

資料 複合動詞「―出す」のリスト(一二四語)

「V1て出す」と言える複合動詞(七八語)

(a) V1の動作主と目的語が同じ領域内において、動作主が目的語を自分の領域内から領域外へ移す動作を表す語(四七語)

洗い出す(洗って、(よごれを)出す)\* 洗い出る  
いびり出す(いびって、出す。いびって(嫁などを)出て行かせ

る) いびり出る

燻り出す (いぶって、(けむたがらせて中にいる者を外へ) 出す)

燻り出る

売り出す (売って、出す。売って、(品物を外へ) 出す) 売り出る

追い出す (追って、(外へ) 出す) 追い出る

送り出す (送って、(外へ) 出す) 送り出る

押し出す (押して、(外へ) 出す) 押し出る

押っ放り出す (押っ放って、(外へ) 出す) 押っ放り出る

掻き出す (掻いて、(水を外へ) 出す) 掻き出る

貸し出す (貸して、出す。貸して、(本を図書館の外へ) 出す) 貸し出る

担ぎ出す (担いで、(外へ) 出す) 担ぎ出る

切り出す (切って、出す。(木を) 切って、(他のところへ) 運ぶ)

切り出る

汲み出す (汲んで、(外へ) 出す) 汲み出る

蹴出す (蹴って、(外へ) 出す) 蹴出る

曝け出す (曝けて、出す。曝けて、(からだの一部を外へ) 出す)

曝け出る

し出す (して、出す。(料理を) して、届ける) し出る

絞り出す (絞って、(外へ) 出す) 絞り出る

締め出す (締めて、出す。(戸を) 締めて(外へ) 出す) 締め出る

吸い出す (吸って、出す。(液体を) 吸って(外へ) 出す) 吸い出る

る

漉き出す (漉いて、出す。(濁った液体を) 漉いて(外へ) 出す)

漉き出る

迫り出す (迫って、出す。押すようにして、(ひじを) 出す) 迫り出る

たたき出す (たたいて、(外へ) 出す) たたき出る

つかみ出す (つかんで、(外へ) 出す) つかみ出る

突き出す (突いて、(外へ) 出す) 突き出る

付け出す (付けて、出す。(代金を) 書いて、提出する) 付け出る

つまみ出す (つまんで、(外へ) 出す) つまみ出る

積み出す (積んで、出す。(荷物を) 積んで、送る) 積み出る

つり出す (力士を) つって、(土俵の外へ) 出す) つり出る

投げ出す (投げて、(外へ) 出す) 投げ出る

担い出す (担って、(外へ) 出す) 担い出る

吐き出す (吐いて、(外へ) 出す) 吐き出る

掃き出す (掃いて、(外へ) 出す) 掃き出る

運び出す (運んで(外へ) 出す) 運び出る

挟み出す (挟んで、(外へ) 出す) 挟み出る

はじき出す (はじいて、(外へ) 出す) はじき出る

払い出す (払って、(お金を) 出す) 払い出る

張り出す (張って、出す。張って、(ビラを) 見せる) 張り出る

ひり出す (ひって、(大小便を) 出す) ひり出る

放り出す (放って、出す) 放り出る

吐き出す (吐いて、出す) 吐き出る

ほっぼり出す (ほっぼって、出す) ほっぼり出る

捲し出す (まくして、出す。追いたてて、(何かを外へ) 出す) 捲\*  
 し出る  
 捲り出す (まくって、出す。追いたてて、(何かを外へ) 出す) 捲\*  
 り出る  
 奉り出す (奉って、出す。ささげて、出す) 奉り出る\*  
 揉み出す (洗濯物を) 揉んで (洗って、(汚れを外へ) 出す) 揉\*  
 み出る  
 遣り出す (遣って、出す。送って、(外へ) 出す) 遣り出る\*  
 (b) V1の動作主が目的語の領域外にいて、動作主が目的語を、あ  
 る領域内から自分の領域内へ移す動作を表す語(三一語)  
 暴き出す (暴いて、出す。暴いて、(人の秘密を) 明らかにする)  
 暴き出る\*  
 請け出す (請けて、出す。借金を申し請けて払い、質に入っている  
 ものを引き取る) 請け出る\*  
 抉り出す (抉って、(中身を) 出す) 抉り出る\*  
 選び出す (選んで、(一つを) 出す) 選び出る\*  
 おびき出す (誘って、(隠れていた者を自分のもとへ) 出す) おび  
 き出る\*  
 書き出す (書いて、(要点を) 出す) 書き出る\*  
 嗅ぎ出す (嗅いで、(隠れているものを) 見つける) 嗅ぎ出る\*  
 駆り出す (駆って、(熊などを) 出す) 駆り出る\*  
 借り出す (借りて、(お金を) 出す) 借り出る\*  
 聞き出す (聞いて、出す。聞いて(秘密などを) 探る) 聞き出る\*  
 繰り出す (繰って、出す。(順順に) 繰って(糸や綱を) 出す)

繰り出る\*  
 探し出す (探して、出す。探して(何かを) 見つける) 探し出る\*  
 探り出す (探って、出す。探って(何かを) 見つける) 探り出る\*  
 誘い出す (誘って、出す。誘って(誰かを自分のもとへ) 出す)  
 誘い出る\*  
 救い出す (救って、出す。(人を) 救って、(現場から) 出す) 救\*  
 い出る  
 手繰り出す (手繰って、出す) 手繰り出る\*  
 尋ね出す (尋ねて、出す。尋ねて、見つける) 尋ね出る\*  
 連れ出す (連れて、出す。誘って、(自分のもとへ) 出す) 連れ出  
 する  
 取り出す (取って、(自分のもとへ) 出す) 取り出る\*  
 抜き出す (抜いて、出す) 抜き出る\*  
 引きずり出す (引きずって、出す) 引きずり出る\*  
 引き出す (引いて、出す) 引き出る\*  
 引っ張り出す (引っ張って、出す) 引っ張り出る\*  
 拾い出す (拾って、出す) 拾い出る\*  
 掘り出す (掘って、出す) 掘り出る\*  
 見出す (見て、出す。見て、発見する) 見出る\*  
 見つけ出す (見つけて、出す。見つけて(何かを) 出現させる)  
 見つけ出る\*  
 召し出す (召して、出す) 召し出る\*  
 持ち出す (持って、(自分のもとへ) 出す) 持ち出る\*  
 呼び出す (呼んで、(人を) 出す) 呼び出る\*

選り出す (選って、出す) 選り出る

「V1て出す」と言えない複合動詞 (四六語)

(a) 「―出る」に置き換えられる語 (一七語)

溢れ出す (溢れて、出す) 溢れ出る

浮き出す (浮いて、出す) 浮き出る

掛け出す (掛けて、出す) (縁などを) つき出して作る) 掛け出る

漕ぎ出す (漕いで、出す) 漕ぎ出る

こぼれ出す (こぼれて、出す) こぼれ出る

染み出す (染みて、出す) 染み出る

突き出す (突いて、出す) 突き出る

飛び出す (飛んで、出す) 飛び出る

逃げ出す (逃げて、出す) 逃げ出る

しみ出す (滲んで、出す) しみ出る

抜け出す (抜けて、出す) 抜け出る

這い出す (這って、出す) 這い出る

はみ出す (はみで、出す) はみ出る

吹き出す (吹いて、出す) 吹き出る

踏み出す (踏んで、出す) 踏み出る

萌え出す (萌えて、出す) 萌え出る

(b) 「―出る」に置き換えられない語 (二九語)

(b-1) 「開始」のアスペクトを表す語 (二〇語)

言い出す (言って、出す) 言い出る

売れ出す (売れて、出す) 売れ出る

思い出す (思って、出す) 思い出る

駆け出す (駆けて、出す) 駆け出る

し出す (して、出す) し出る

存じ出す (存じて、出す) 存じ出る

泣き出す (泣いて、出す) 泣き出る

乗り出す (乗って、出す) 乗り出る

降り出す (降って、出す) 降り出る

燃え出す (燃えて、出す) 燃え出る

(b-2) 「完了」のアスペクトを表す語 (一九語)

編み出す (編んで、出す) 編み出る

映し出す (映して、出す) 映し出る

生み出す (生んで、出す) 生み出る

描き出す (描いて、出す) 描き出る

織り出す (織って、出す) 織り出る

稼ぎ出す (稼いで、出す) 稼ぎ出る

醸し出す (醸して、出す) 醸し出る

考え出す (考えて、出す) 考え出る

仕出す (して、出す) 仕出る

磨り出す (磨って、出す) 磨り出る

煎じ出す (煎じて、出す) 煎じ出る

染め出す (染めて、出す) 染め出る

築き出す (築いて、出す) 築き出る

作り出す (作って、出す) 作り出る

研ぎ出す (研いで、出す) 研ぎ出る

煮出す (煮て、出す) 煮出る\*  
ひねり出す (ひねって、出す) ひねり出る\*  
むぎ出す (むいて、出す) むぎ出る\*  
割り出す (割って、出す) 割り出る\*